体育理論の授業観を形成する要因に関する研究

―積極的に関わる中学校保健体育教師に焦点を当てて―

佐藤　哲（東京学芸大学）

１．目的

本研究の目的は,体育理論に積極的に関わる中学校保健体育教師を対象とし,体育理論における授業観を形成する要因を職業的社会化の観点から検討することを通して,積極的な関わりの促進に必要となる取り組みを指摘することである.

２．研究方法

１）対象者は体育理論に関する実践研究の論文の執筆が 1 件,定期刊行物の「体育科教育」への体育理論に関する実践の寄稿が 1 件あり,熱心に授業研究を進める中学校保健体育教師１名(T 教諭)とした.

２）本研究では対象者への半構造化インタビューによって分析データを収集した.

３）分析データは質的データ分析のための手法である SCAT(Steps for Coding and Theorization)を用いて分析した.

３．結果と考察（MS ゴシック 10.5 ポイント）

分析の結果,体育理論の授業観は,図１に示したことが要因となって形成されることが明らかになった.

専門的社会化過程において,大学時代の指導教員から授業観察の機会を提供され,これまで考えていた体育授業観からのダイナミックなパラダイムシフトが起こることによって,新たな体育授業観が萌芽していく可能性があることがわかった.この時に,専門的社会化過程において,体育理論に対して積極的に関わることの基となる体育授業観が芽生えており,それが強力な基盤を形成していると考えられた.

また,体育理論に積極的に関わる体育教師も,組織的社会化過程において,多くの体育教師と同様に,規律を守るよう,厳しく指導するといった学校からの役割期待をかけられた経験をしていることが明らかになった.

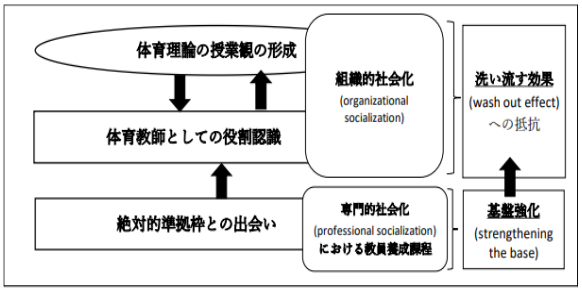

図1　体育理論の授業観を形成する要因の関係図

さらに,体育理論に積極的に関わる体育教師は,教科指導よりも部活動指導等に力を注ぐといった特徴をもった体育教師文化の中で生きている多くの体育教師とは異なる存在であることが明らかになった.これらのことから,組織的社会化過程における,体育教師文化という洗い流す効果に対しても抵抗していると考えられた.

４．結論（MS ゴシック 10.5 ポイント）

本研究において,体育理論の授業観の形成には組織的社会化過程において,洗い流す効果に対して抵抗することが重要であることが明らかになった.本研究の目的である,豊かな体育理論の授業の促進に必要となる取り組みを指摘するためには,専門的社会化過程において,体育理論の授業観を支える基盤をいかにして強化するべきであるのかということについての検討が求められる..

５．主な参考文献

１）沢田和明(2001)「体育教師論」―体育教師はどのように作られ,利用されてきたか―.杉本厚夫,『体育教育を学ぶ人のために』,世界思想社, pp. 204-218.